

厄介な英語とその成り立ち

英語はなぜこんなに習得しにくいのか、と悩んだことはありませんか。まず、聞き取りにくい。音読しようとしても、綴りと発音が規則的に対応していない、または複数の音節のどこを強調したらいいのかわからない。作文すると、不規則な動詞が多い。また、前置詞が多くあってどれを使うか迷うなど、困難は尽きないと思います。実際、本校で使われている教材にも、“**Troublesome English**”（厄介な英語）と題するページがあって、学習者のために文法、用法等を解説しています。

ここで、イギリスの歴史を少しひも解いていくと、英語がなぜこんなに複雑なのか納得できると思います。イギリスは日本のような島国であっても、実はその昔、度重なる侵略を受け、その影響が今も残っている点でわが国と大きく異なります。特に英語の成り立ちに注目すると、外来の征服者・支配者がもたらした様々な由来の言葉、古いものと新しいものが混在していて、まるで接木（つぎき）をしたようです。

中でも、英語に特に大きな影響を与えたのが北欧のバイキングで、イギリスへの侵略は793年（日本では奈良時代末期）に始まったとされています。バイキングといえば、ヨーロッパ各地を荒らし回った海賊のイメージが強いのですが、彼等は略奪しただけでなくイギリスに残りその後何世紀にもわたって定住したため、後世に残る影響をもたらしたといえます。西暦1000年頃の地図を見ると、イギリス国土の約半分が彼等の定住地 **Danelaw** 「デンマーク人の法律が通じる土地」と記されています。

バイキングの「置き土産」で、私たち最も馴染み深いのは一週間の曜日の名称でしょう。水曜日の **Wednesday** は北欧神話の主神オーディン **Odin** の日（ノルウェー語：**Onsdag**）、木曜日は雷神トール（**Thor**）の日（ノルウェー語：**Torsdag**）、金曜日は豊穡の女神フレイアの日（ノルウェー語：**Fredag**）に由来しており、この他、**be** 動詞の複数形 **are** など、日常使われている語彙の隅々に影響を垣間見ることができます。

バイキングに続いて、英語にさらに大きな変化をもたらしたのは、ノルマン人によるイギリス征服（1066年、日本では平安時代）で、これをきっかけにフラ

ンス語風の語彙が英語に多く入りこんだと考えられています。ノルマン人とは、今のフランス北部ノルマンディーに住んでいた人々ですが、元を辿ればやはりバイキングの子孫で、現地に保存されている当時の時代絵巻 (Bayeux Tapestry、全長60メートルを超える刺繍) を見ると、竜をかたどった船首の船と騎馬でイギリスに攻め込んでいます。

もともとヨーロッパの辺境の島国の言葉であった英語は、様々な影響を受け、古いものと新しいものが混在したまま世界各地に広まりました。また、今では学術、ビジネスなど様々な分野で業務用語・共通語として使われるようになり、今では一種の「グローバル・スタンダード」のように考えられています。しかし、歴史に翻弄された英語は読み方や文法体系が整然としていないため、英語が母語でない私たちのような学習者を今日に至るまで悩ませています。

因みに、バイキングのルーツの北欧各国では、現在英語がたいへんよく通じます。控え目でシャイな国民性のため向こうから見知らぬ相手に話しかけてくることはあまりないのですが、こちらから何か聞けばわかりやすくゆっくりした英語で答えが返ってくるでしょう。でも、これはバイキングが英語を航海で持ち帰ったからではなく、ここ数十年で英語教育が北欧に普及したからだそうです。

写真：ノルマン人のイギリス征服を描いた時代絵巻”Bayeux Tapestry”



出典：Bayeux Tapestry 公式ウェブサイト www.tapisserie-bayeux.fr/
イギリス Woodlands Junior School 歴史資料